

平成 30 年度 新潟市食育推進会議

日 時：平成 30 年 9 月 10 日（月）午後 2 時～3 時 30 分

会 場：新潟市食育・花育センター2 階 講座室 A

会 長	<p>ただいまご推薦いただきました新潟県立大学の村山でございます。</p> <p>この食育推進会議につきましては、多様な生産から流通、販売、消費、そして健康に至るまで多様な委員の皆様のご参加を得て、この食育推進計画を確認したり、様々な意見をいただきながらいいものにしていくということが役割でございますので、今日もどうぞご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に沿いまして議事を進めていきたいと思っております。</p> <p>まず、事務局より 2、(1) 第 3 次新潟市食育推進計画の進捗状況および平成 29 年度活動状況報告についてお願いいたします。</p>
事務局	<p>食と花の推進課 黒崎です。それでは、私から、第 3 次新潟市食育推進計画の進行状況および平成 29 年度活動状況について、資料 1 から資料 3 に基づき説明させていただきます。お手元にご用意いただきたいと思います。</p> <p>第 3 次新潟市食育推進計画は、平成 29 年から平成 33 年までの 5 年間の計画として、平成 29 年度より開始して今年でちょうど 2 年目を迎えております。</p> <p>第 3 次計画では、より市民の視点を大事にした整理を行いまして、えらぶ、つくる、たべる、育てるという 4 つのテーマとそれに付随する目標を掲げるとともに、第 2 次計画の取組ですとか成果などから 3 つの視点を掲げて施策を展開することとしております。</p> <p>今年度は、第 3 次計画策定後のはじめての評価年となりますが、その進捗状況について説明をさせていただきます。</p> <p>まず、資料の説明をさせていただきます。資料 1、数値シート一覧ですが、こちらをご覧ください。全部で第 3 次新潟市食育推進計画は 18 シート 23 項目からなります。この資料では、平成 28 年度の策定時の状況と平成 29 年度の実績を示しています。のちほど、その資料で進捗状況を説明させていただきます。</p> <p>次に、資料 2、平成 29 年度の全市の食育推進に関する事業をとりまとめた年次報告となります。全庁的に照会をかけて報告を受けたもので、今年度より第 3 次新潟市食育推進計画に合わせて、様式の中にえらぶ、つくる、たべる、育てるという四つのテーマの区分を設けてあります。本日は、次第の都合で詳細の説明を省かせていただきますので、お時間のあるときにご覧いただければ</p>

ありがたいです。

次に資料3です。こちらは、平成29年度の食育関連主要事業を示したもので、四つのテーマごとに目標達成に資する事業を主要事業としてまとめたものです。この資料は、今年の3月に開催しました平成29年度第2回目の会議で説明した資料と同じですので、詳細の説明を本日は省かせていただきます。

それでは、資料1をご覧ください。まず、最初に18シート、23項目について平成28年度策定時と平成29年度実績を比較してみました。その結果をご報告いたします。

前年度より改善していた指標は、23項目中9項目。変化なしは2項目。うち、一つは指標17の小学校における農業体験ですが、これは目標をすでに達成しております。前年度より悪化していた項目は、12項目でした。

改善した項目を指標で言いますと、まず指標2、健康に配慮した食生活に関する指標、指標5、食の安全に関する指標、指標9、食育マスターの派遣、指標10、拠点施設における事業実施回数、指標12、よく噛んで食べる市民、指標16、農林漁業体験、指標18、食に関するボランティア数です。

変化なしは、指標6学校給食の地場産給食使用割合および指標17農業体験学習でした。以上が、全体的にみた傾向となります。

次に、この指標の中で二つほど取り出してほしい項目といたしますか、所見を説明させていただきます。

まず、1、「食（食事や食習慣）」に関心を持っている市民の割合についてです。これは、第1次食育推進計画より継続している指標で、私どもの計画の中の柱になっている指標の一つであります。

平成29年の結果は、83.1パーセントで、平成28年策定時の83.8パーセントとの差は0.7パーセントでした。

この指標は、平成19年に策定した第1次計画から引き続き掲げている指標で、その推移を今回見てみたのですけれども、平成18年度時点では72.1パーセントでした。その後、平成23年度の第2次計画策定時は77.0パーセントとなり、その後の5年間は75パーセント台を維持しながら、多少幅がありますけれども推移してきています。

第3次計画では、指標2、食事や食習慣という言葉を加えて食の定義をより明確にして食育の関心度を見ることとしました。平成29年度の結果が83.1パーセントでした。第1次計画からは、11パーセント。第2次計画から比較しますと6.1パーセントポイント増となっております時代の流れもあると思いますが確実に関心度が改善しています。

これは国と同じで平成33年度の目標は90パーセントとなっておりますので今後もその目標値を達成できるよう食育の普及啓発等継続した取組が必要と

考えます。

次に、国の第3次計画を踏まえて、本市としての新たな指標として加えた指標7、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思う市民の割合と指標8、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる市民の割合についてです。これは、平成29年度の結果を見ると、大切だと思う市民の割合は79.5パーセントで昨年度よりマイナス2.5パーセント低くなっていました。また、受け継いでいる市民の割合は53.5パーセントで、昨年度前年度より1.2パーセントの減でした。また、参考値として掲げている、受け継いでいる、かつ伝えている市民の割合は34.5パーセントでした。

これについてですけれども、本市の特徴でもある多種多様な食材を使った郷土料理や家庭料理は、家庭や地域の行事の中でそれぞれが担い手となって受け継がれているものです。受け継いでいる人を取り出した場合、知っている人と言えると思うのです。では、受け継いでいる人の中でも実際に次世代に伝えている人のさらなる発掘ですとか、その方々の力を借りて検証することがより必要だと考えます。

さらに、今回の調査結果を20代、30代の若い世代で見ました。これは、ここに数字としてあがっていない部分で、アンケートをひもといて少し年代別に見た結果ですけれども、指標7の20代30代の実績、大切だと思う人の割合が81.3パーセントであるのに対して、8、受け継いでいると回答した人が48.1パーセントでした。

これを、40代以上の人はどう思っているのかということアンケートの細かい数値指標の中で見てみたのですけれども、40代以上の人が大切だと思う人の割合が80.2パーセントで、受け継いでいる人の割合が55.1パーセントで、比べるとやはり20代30代と40代以上では少し開きがあることが分かりました。

これは、少々心配のし過ぎのところかもしれませんが、食文化を伝えることができる人の高齢化が進んで若い世代が伝統的な食文化を継承しないまま世代交代が進めば食文化は、ここで言うのは具体的に言うと地域や家庭で受け継がれてきた料理や味のことですけれども、それを子どもたちへ継承することがやはり難しくなってくるのかと考えられます。ですので、そのためには地域の食育活動のさらなる活性化とか、世代間交流とかそういった取組により強化をしていくことが大事だと感じたところです。以上2点をピックアップして説明させていただきました。

指標全体を通してですけれども、平成29年度実績を平成28年度策定値の実績と比較した結果、改善、達成、変化なしを合わせると全体の約5割弱くらい

	<p>です。改善した項目も、悪化した項目も単年度の結果で評価することは適切ではないので、今後の経過をみていくことは重要だと考えております。</p> <p>また、各種食育関連事業がどの指標の結果に反映したかということ特定することもなかなか難しいもので、今後も関係課と連携しながら事業を継続していくことが重要であると考えます。</p> <p>今後は、やはり若い世代に対する食育は子どもへの波及効果も期待できることから、視点にも私どもは掲げておりますけれども、ターゲットや目的を絞った取組の継続がより必要であると考えますし、食に関するボランティア等の人材確保育成等を念頭において、これからも各種事業の展開の継続が必要であると考えました。</p> <p>大ざっぱな進捗状況の説明になってしまいましたが、以上で説明を終わります。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。ただいまの報告の中で、指標1の食育、食に関心を持っている市民の割合については、長期的には改善傾向にあるというお話と、ターゲットを絞った取組が必要ということはずっと会議でもやってきたわけです。その点で若い世代のデータを少し特出して、取り出していただけたところ、やはりデータはあまりよくない。</p> <p>今、ご報告にあった7、8に加えて11、13も20、30代も特出ししていただいていますけれども、そこもあまりよくないということで、今後ターゲットとしてさらに強化していく必要があるのではないかとということでした。</p> <p>委員の皆様から、分析などにつきまして、ご質問やご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>今、若い世代のターゲットは確かにそのとおりで私も思うのですが、どの自治体も結構、国も含めて悩んでいる。アプローチが難しい。20代と30代以上は多分かなり違っていて、20代は結構富裕層というか、大学生もいればいろいろな専門学校生もいたりして、おそらく30代あたりがターゲットになっていくのかと思うのですが、どういう方向性でこの若い世代にアプローチしていくか何かアイデアがありましたらお願いします。</p>
事務局 黒崎	<p>現時点の事業で子どもの食育体験をやっているのですが、これは保育園に出向いて行って、子どもに対して食育体験をしてもらう取組です。</p> <p>保育園は皆さんご存知のとおり、ご両親が働いている方が対象で行くところですが、そういったところに保護者の方をお呼びいただき巻き込むような形で、子どもを通して親世代の人にも興味を持ってもらうような何か仕組みづくりという取組ができないかということで、現在模索をしながら実施をしているところです。</p>
会 長	<p>多分、私も、そういうふうに、子どもに関しては保育園とか幼稚園とか小学</p>

	<p>校もほとんどの子どもが行っているわけで、そこを通していくというか、より多くの人たちにアプローチしていくルートとして重要ではないかと思います。</p> <p>平松委員、いかがでしょうか、その観点から、何かコメントをよろしく願いいたします。</p>
平松委員	<p>私もいろいろな形でお母さんたちに食育を掲げているのですが、はっきりいってお母さん方は、今、常に忙しい。子ども第一に考えてほしいところがあるのですが、自分を1番に考えて、そして2番目に子どもとか、旦那さんは3番目くらいな感じで、忙しいお母さんにどのように興味を持ってもらって子どもに引きつけていこうかということが、常に四苦八苦しているところなんです。</p> <p>子どもが楽しく元気で明るく嬉しい方向に行けば、興味もこちらに、保育論を信じてこうやっていけばいいのだなというところは、確かに食いついてくるのです、子どもが元気であれば。健康でいきいきしてくれば。しょんぼりしていたり今日は楽しくなかったという、保育園でどうしているのかというところですが、元気で、毎日ただいまと言って帰っていくところがうまくいけば、お母さんも食いついてくるので、言葉も少し悪いのですが、興味を持っているところを、子どもがうまく成長しているところを、私たちも出していければいいというところなんです。</p> <p>江南区でもクッキングとかやりたいと言って、実際に今やり始めている。去年は第5保育園、その前は横越中央保育園でしたか、双葉保育園とかやっていたところもありますので、江南区で行っているところをこういうところがいいというところを具体的に保護者に啓発することも大事かと思っております。</p> <p>現に菌ちゃん食育活動で、今の保育園よりも前の保育園のところでは風邪をひかなくなったというところは事実で、保護者様も便通がすごくよく、私もデータしてみたら菌ちゃん活動で便秘気味の子が減ったということデータを出したら、やはりお母さんたちもすごく発酵食品を食べることはいいのですね。風邪をひかなければ仕事を休まなくていいわけだし、そういうところで実際のうまくいっているところを、ここはこうやって力を入れているからお母さんたちも協力してというところが、私どもの一番大事なところなんです。</p> <p>園だけで一生懸命やったって子どもたちは健康にならないので、ぜひお母さんたちも一緒にお願いします、家庭が一番大事だということを1日3回食のところを1回しか保育園で食べていない。でも、朝、晩しっかりお家で食べている子は便も調子がいいし、早寝早起き朝ごはんなのですか。朝、しっかり食べてこなければ園の活動もうまくいかないというところもあるので、そこを引きつけるためにもぜひとも子どもたちがいきいきするようなそんな活動をやはり引き込んでいければいいかと思っております。</p>

会 長	<p>貴重なご意見をありがとうございました。うまくいっているところをデータで示していくということは、非常に役割に立つといいですか、私たちとしても得るものがあるコメントだったと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。高塚委員、お願いします。</p>
高塚委員	<p>高塚です。今、菌ちゃんの話が出ましたので、私もインストラクターをしているという関係もございますので少し意見させていただきます。</p> <p>その前に前提として、今秋葉区で akiha 森のようちえんということで認可外の幼稚園ですけれども、1年中外で保育をするというような幼稚園の運営に関わっております。私は、理事もさせていただいて農業体験や自然体験のファシリテーションで行かせていただいているのです。その活動をすればするほど、定員も限られていますしお金も結構かかるので、当然自然体験農業体験を食にすごく関心のある親御さんが子どもを預けてくださるという事実があって、時間にも余裕があってということの中でやればやるほど、でもそういう子もそうではなくて、親御さんが本当に食や農業に全く関心を持つ時間がなかったり、なかなか持てないようなお子さんに対してどうアプローチするのかというようなことをすごく感じるようになりました。</p> <p>それで、今新潟市がやっています菌ちゃん元気野菜作りについては、本当に市立の保育園ですとか幼稚園にどんと入っていけますので、趣味嗜好とかそういう考え方が揃った親御さんだけではなくていろいろな方にアプローチできるので、非常にいい取組だと思っております。</p> <p>まだまだ発展途上なので、今後親御さんには子どもの姿を見ていただくということはもちろんけれども、親御さんには理屈づけをした頭からデータをもとにした説明をしていかなければいけないかと思っています。子どもにはさらに理屈ではなくて五感に訴えるようなプログラムにもっと進化していきたいと思っています。</p> <p>心配事としては、なかなかこの食育、菌ちゃん以外の事業もそうですけれども指標というか成果が目に見えづらいというか、税金をこれだけ使ってどうなのだろうということはなかなか短期間で目に見えづらいので、昨今の財政状況から一律辞めようという話にならないかを非常に心配しております。そのようにならないように頑張っていきたいと思っています。以上です。</p>
会 長	<p>ずっと、食育推進会議で悩みが無関心層にどうアプローチするか。いろいろな講演会をやっても、結局来る層はいつも同じではないかということが、ずっと懸案だったのですが、ここに来て今お話をうかがって少し何だかいい策が見えてきたのかと思いました。</p> <p>あと、データを見える化するということに関して、確かに資料1に出てきているものは最終形のデータなのでむしろそれまでの期間のそういった便が出</p>

	<p>るようになったとかいろいろ取組中の中間のデータがあるのです。それらを集めて市でも集計していただくとかそういったことでもう少し取組としての成果が見えやすくなるのかというふうに感じましたので、それは事務局にお願いしたいと思います。</p> <p>ほかに何かご意見などございますでしょうか。ないようでしたら、次の議題に移りたいと思います。</p> <p>資料 4、5 と本日配付しました資料 6 から資料 11 をご用意ください。</p> <p>2、(2) 平成 30 年度食育推進事業について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>食と花の推進課から、説明いたします。</p> <p>食育花育担当の田中です。資料 4 をご覧ください。今年度より食育・花育センターが指定管理者による運営になったことに伴う平成 30 年度からの事業実施体制です。今まで、市が食育・花育センターで実施してきた業務は上段の引き続き市が食と花の推進課と行うものと、下段の食育・花育センターで指定管理者により運営するものに分かれました。</p> <p>私からは、資料上段の現在食と花の推進課で実施している業務の中から食育推進計画推進事業の食育マスター制度についてと、食育の日の取組についての二つを説明いたします。これらの事業は、資料 5 の一覧表の中では 1 ページ目の 1 番と 2 ページ目の 2 番の事業となります。</p> <p>では、資料 6 食育マスター制度による地域での食育活動の推進をご覧ください。食育マスター制度とは、食育活動の講師として、市に登録した人材を学校や地域の団体の要請により派遣し、その経費の一部を助成する制度で、今年度から制度の内容を一部変更して実施しております。</p> <p>変更内容は、1 番の平成 30 年度からの変更点のとおりです。2 番の派遣状況の表をご覧ください。7 月 31 日までの状況ですが、上段が今年度、下段の平成 29 年度と比べ派遣回数と参加者数ともに減少しております。</p> <p>次に 3、派遣団体の内訳について右の円グラフをご覧ください。派遣先は例年通りサークルや学校、自治体やコミュニティ協議会が多いです。けれども、学校からの申請の割合は例年に比べると少し減少しております。これは、学校は例年年に 2 回申請していたところが多かったので、制度の変更により 1 回しか申請できなくなったことも原因と考えております。</p> <p>このような状況より、活動の様子を載せたチラシを作成し申請していない学校や保育園を中心にこれから紹介する予定です。</p> <p>最後に 4 の調理実習内容の内訳の円グラフをご覧ください。笹団子などの郷土料理の依頼が多く、今年度は防災食が増加しています。以上が、今年度の状況です。</p>

	<p>マスター制度は、今年で7年目になります。今後さらに食育推進活動を充実させていくために、この制度については今までの利用状況を精査し、派遣する内容、団体、利用者による経費の一部負担なども含めて今後検討していく予定です。マスター制度については、以上です。</p> <p>続きまして、食育の日の取組について説明します。資料7をご覧ください。当課では、市内の飲食店や小売店の協力を得て、6月、10月、3月に食育の日のイベントを実施しております。</p> <p>本日は、6月に実施しました小売店での取組を中心にお話します。時間の都合上、飲食店での取組は今年度から新たに開始したものについてのみ説明いたします。</p> <p>1の6月の取組状況の小売店の部分をご覧ください。6月時点では、新潟市内の大型スーパーを中心に12社91店舗から協力店として登録していただき、その9割以上の店舗が今回の取組に参加してくださいました。</p> <p>2をとばし、3の6月の取組の様子をご覧ください。写真が4枚横に並んでいるところになります。協力店のスーパー各店では、地場産食材の集合販売や食育の日ののぼり旗の設置およびレシピカードや食育の日のチラシの設置を行いました。</p> <p>最後に4、10月から飲食店で実施する新たな取組を紹介いたします。協力店に主食、主菜、副菜が揃い、野菜を120グラム以上使用したメニューを食育の日のメニューとして提供いたします。</p> <p>さらに資料の一番下の写真のような卓上メモを設置し、食育の日の普及啓発に取り組みます。以上が、食育・花育担当からになります。</p>
事務局	<p>食と花の推進課教育ファーム・農村都市交流担当の佐藤と申します。</p> <p>私からは、資料5、2新潟発わくわくファーム推進事業です。詳細の資料を資料8につけましたので、資料8をご覧くださいながらお聞きください。この事業は大きく分けると三つになります。</p> <p>まずは、「アグリ・スタディ・プログラム」を核とした農業体験学習になります。</p> <p>農業体験といいますと、新潟市に限らず全国どこの自治体でも行われていまして、新潟市も昔から農業体験を実施してきました。けれども、これまでの学校での農業体験というとねらいは不明確で、子どもたちが農業体験をして楽しかったとかおもしろかったで終わる傾向が強かったように思います。</p> <p>そこで、教育委員会と連携して作成したものが「アグリ・スタディ・プログラム」というものになります。これは、文部科学省の学習指導要綱に準拠しておりまして、どの授業でどういうねらいで子どもたちに何を学ばせたいかというものを計画したのになっています。よって、農業体験ではなく農業体験学</p>

習となっております。新潟市の特徴的な産業である農業と教育を結び付けて実感を伴う学びによって各教科の学習効果を高めて、加えて農業に興味、関心、理解を深めましょうという新潟市独自の内容となっております。

現在は、「アグリ・スタディ・プログラム」を核としまして、市内すべての小学校で農業体験学習を実施しているという状況になっています。

次に、「菌ちゃんリサイクル元気野菜作り」です。先ほどからお話が出ていますけれども、これは具体的に何をするかというと、いわゆる野菜くずと微生物を活用した有機農法ですけれども、子どもたちに有機農法を普及させたいために行っているものではありません。普段は捨てるはずの野菜くずを活用してごみではなく無駄なものはないということ。あと、小さくて見えない微生物、ここでは親しみを込めて「菌ちゃん」と言っているのですけれども、菌ちゃんを感じてもらったり、そして菌ちゃんがたくさんの土で元気な野菜が生長する姿を子どもたちに自分の姿と置き換えてもらって、子どもたちの感性を育てていくということが目的の事業になります。

先ほど、高塚委員や平松委員からお話がありましたけれども、元気な野菜作りと私たちの元気な体づくりというものは似ている部分が多くありますので、この取組から家庭の食生活を考える取組につなげていきます。

先ほど、子どもの食育体験事業の話がありましたけれども、それと同じで子どもの学びを家庭に返すというような取組を進めている事業になります。

今年度、約 20 の幼稚園と保育園で実施しておりまして、本日参加されている平松委員の亀田第一保育園をはじめ多くの幼稚園と保育園で実施いただいています。高塚委員においては指導員としてご協力いただいています。

最後に、「アグリ・ケア・プログラム」についてです。最近、障がいのある人を農業の現場で活躍してもらおうということで、農福連携が盛んになっているところです。

農福連携の目的は、障がいのある人が農業の現場での就業を目指すということになりますけれども、障がいの特性ですとか程度は千差万別ですので、就労までいける方は限られた方です。

一方、「アグリ・ケア・プログラム」は新潟市の田園資源を活用して、重度の障がいのある方でも体験できる内容になっておりまして、社会参加や生きがいづくりを目指すものになっております。

以前、この会議でも動画で紹介させていただいたのですが、例えば動物に近づくことができなかつた方が動物にえさをあげられるようになったり、家業が農家で家の手伝いをやったことがない人が野菜作りを楽しんだりと様々な感想をいただいているところでございます。

昨年度は延べ 36 の福祉施設で実施していただきましたが、今年度は、50 施

	<p>設を目標に取り組んでいるところです。農福連携やアグリ・ケア・プログラムによりまして、市内の障がいのある方の生活の質が向上することを願って進めています。</p> <p>私からは、以上になります。</p>
事務局	<p>PR担当の長澤です。当課所管の事業は、資料5の1ページ目、3地産地消推進事業と2枚目の一番上の地場産学校給食推進事業です。こちらは、例年続けている事業になりますので、内容についてはそこに記載のとおりでございます。</p> <p>今日、皆様にご紹介させていただきたいのは、資料9をご覧ください。昨年度末のこちらの会議において、平成30年度の取組として、先ほどから委員の皆様からのご意見が出ている無関心層への情報発信を積極的に行っていくとお話させていただきました。</p> <p>その際には、地産地消事業をはじめ、市でいろいろな事業に取り組んでおりますが、それをどのように発信していくかということが重要であるとのご意見を頂戴いたしました。</p> <p>4月から、新潟市食育・花育推進キャラクターのまいかちゃんをキャラクターとして、10代、20代、30代によく使われているSNSを活用した情報発信というものを始めております。新潟の旬の情報については、時期的な限定があり、ホームページでは、適時に発信できなかつたりする場合がありますので、こういったSNSを活用し、タイムリーな情報をお届けする内容としています。また、無関心な層にもきれいな写真等で視覚的にも訴えていきたいとも考えています。</p> <p>2枚目は、実際の掲載例です。新潟の郷土料理はいろいろありますが、地元の方でも実際は食べたことがない方も多くおられると思います。そういった方にも、郷土料理を提供する店を「まいかちゃん」が紹介するような形で発信をしております。週に1回以上、2回、3回は発信をしております。</p> <p>ツイッターやインスタグラムの登録をしていなくても、パソコンで見ることができますので、皆さんにも見ていただいて、こういったおもしろいネタがあるとかそういったものがございましたら、いろいろご意見を頂戴できればと思います。私からの説明は以上です。</p>
事務局	<p>食育・花育センターの浅井です。それでは食育・花育センターの説明をさせていただきます。</p> <p>今年の4月から、いくとぴあ食花運営グループということで、いくとぴあ全体を運営グループで指定管理で管理運営をさせていただくという形で運営し</p>

ております。

二つ大事にしているのですが、1点目はいくとびあ食花全体に毎年おおよそ140万人の利用者がいます。こういうたくさんの利用者があるという強みをまた生かしていかなければという点。

それから2点目は、今日お配りした資料の11になります。簡単に言うと今まで食推の皆さんが進めておいでだった新潟の食と花に関するようなまちの新しい暮らし方とか子どもたちの育ちを今後も引き継いで受け継いでいこうと。それを1枚の紙にまとめて、こういうしっかりした理念のもといろいろな活動を展開しようということで今、運営しております。

資料10に戻ります。具体的な事業の展開です。1つ目は料理教室の企画、運営ということをやっております。意外と強みがあるのですけれども、学校でやる場合は親御さんの了承ということはなかなか難しい問題があるのですけれども、こういうセンターで募集をかけてやる場合は親御さんがもちろん承認しておいでになりますので、いろいろな形の子どもが参加できる料理教室、しかもそこに親御さんも一緒に参加できるという形のものも多く企画できます。それが一つ強みだと思っております。

もう1点は、外部のいろいろな団体の皆さんが高校生、中学生、子どもたちを相手にいろいろな料理教室、中にはお好み焼き甲子園みたいな企画もうちの素敵な調理室で実施されました。

現時点で、主催、共催による料理教室は8月現在で27件実施しております。

それから、貸館今ほどお話したように、ほかの団体様がいろいろな企画をここで展開していくという料理教室については43件8月までに実施しております。両方とももっと拡大できればいいと考えております。

2点目です。食育ミニ体験の実施ということになります。ここにおいでになる子どもたちがちょっとした体験の中で食について考えるとか花の命の尊さについて考えるといっても、特に食に関しては口に入れる物はなかなか実際できませんので、ミニ体験という形でいろいろな活動をうちは準備してやっております。昔からやっていたものを引き継いでおります。

例えば、日曜日あたりに食育ランドというようにいわゆるプチ体験的な食に関する体験活動を組織しております。

それから、帰るときに見ただけだと分かるのですけれども、SATシステム、栄養診断システムというコンピューターで立ちどころにどれくらいの栄養なのか分かるようなコンピューターのシステムもあります。これが8月現在で、もう2万1,921人の子ども、親御さんもいると思いますけれども経験をしております。あと、クイズもやったりしております。

3番目に季節に応じたイベントということで、いくとびあでは8大イベント

	<p>という年間8回イベントを組んで、その中で食育も進めていこうという考え方でおりますので、そこの数値としては今年の今まで開かれたものの数字を入れてきました。</p> <p>それから、食育タイアップイベントということで新規で今年考えていくということですので。いろいろなイベントをやったときにイベントの中に食について楽しく考えられるような仕組みを作っていきたいということで今、企画している最中でございます。近々、とやの物語。のときに鳥屋野潟健康ウォーキングクイズということでクイズを解きながら食についての良さを考えていきたいというような、歩きながらということも大事にしていきたいということで企画しました。</p> <p>その次が、新潟流食生活メニューの開発ということで、これは一番のメインは実は若い人たちがいろいろなメニューを開発してそれを公開できるようなシステムを作っていきたいという考えです。これも、まだ取組が始まったばかりです。</p> <p>最後、こちらにきて、学校、保育園、校園、こども園の皆さんが団体で食に関する体験活動をしていただきたいというのが、食育団体体験プログラムということになります。現時点で、47校園の実施があります。</p> <p>今年、一つ付け加えたいものが、活動するときに子どもたちが人間関係の向上について、今の子どもたちは集団で動くということは非常に苦しかったり、逆に大変な部分があります。せっかく団体で体験していくプログラムなので、その中に人間関係能力の育成というものも含めながら進めていきたいと考えています。</p>
事務局	<p>保健所健康増進課の笹谷と申します。</p> <p>私からは、資料5と本日追加で配らせていただきました水色のリーフレット、新潟市健康栄養調査結果をお知らせします。順にご説明させていただきます。</p> <p>当課では、市民の健康づくり、主に一次予防について各区役所の健康福祉課と連携し取組を行っています。</p> <p>資料5にあります主要事業としましては、「えらぶ」で4事業、「つくる」で2事業、「たべる」で5事業、「育てる」で1事業をこちらに載せさせていただいておりますが、主に保健所で取り組んでおります「ちょいしおプロジェクト」についてご説明いたします。リーフレットをご覧ください。</p> <p>本市では、胃がんと脳血管疾患の死亡率が高いという実態があります。食の面からは、この二つの疾患に対して減塩が必要ということで、そもそも市民がどれくらいの食塩を摂っているのかというところを調査した結果をまとめたものがこちらのリーフレットになります。</p>

	<p>2 ページ目の上段をご覧ください。男性の 8 割が摂り過ぎ、女性の 9 割が摂り過ぎているという状況でした。こういった実態を踏まえ、市民に減塩について知っていただき取り組んでいただくために、いろいろな事業に取り組んでおります。</p> <p>学校における減塩教育ですとか、これまでの保健事業では、どうしてもやはり関心のある層のお客様がいらっしゃる形になりますので、無関心層へのはたらきかけとして、農家レストランにおける減塩メニューの提供ですとか、スーパーや販売店などと連携したイベントの実施などに、県立大学の学生からもご協力をいただきながら、今年度も取り組んでいく予定としております。</p>
事務局	<p>食の安全推進課の齋藤と申します。私からは資料 5 を使って説明をさせていただきます。</p> <p>食の安全推進課では、食品衛生に関する普及啓発と給食施設を介した健康情報の提供ということで活動させていただいております。資料 5 の 1 ページ目の 4 番から 9 番、資料 5 の 4 ページのその他の部分の食品表示の監視指導や食の安全基本方針の取組の推進ということを担当しております。その中で資料の 1 ページに戻っていただきまして、現在の実施状況についてご報告いたします。</p> <p>5、きのこ講習会の開催は 10 月に開催が決定いたしまして、9 月 16 日の市報で市民向けに呼びかけて募集をする予定です。</p> <p>6、キッズ食の安全探検隊は開催済みで、8 月の夏休みに小学 5、6 年生を対象に募集をかけまして、大阪屋の工場の見学をさせていただきました。</p> <p>7、園児・小学生対象の手洗い講習会の開催は、昨年度に引き続き今年度も実施しております。今年度は、保育園が昨年度は南区を対象にやったのですが、今年度は西蒲区を対象に 6 園で昨年と同じような内容で実施する予定です。小学校は募集をかけましたところ申込みが多数ございまして、今年度は 11 校 30 クラスで実施する予定となっております。</p> <p>9 の給食施設利用者への健康情報の提供ですけれども、特に働き盛り世代向けに情報を発信していこうというところで、事業所給食に介入しまして健康情報、特に減塩に関する情報の食卓メモを配布することと、実際に給食施設にご協力をいただいて味噌汁の塩分濃度を測定しながら減塩に取り組んでいただくといったことを、今年度実施していく予定としております。</p>

事務局	<p>教育委員会保健給食課課長補佐の山崎と申します。</p> <p>保健給食課の所管事業ですが、資料 5①「えらぶ」では 17、そして 2 ページの②「つくる」では、10、11。③「たべる」では 9、そして④「育てる」で 7、8、9、10。その他のところで保健給食課三つの事業が載っておりますが、今日はこの中から二つ、保健の分野と給食関連でご紹介したいと思います。</p> <p>資料 5 の 17、生活習慣病健診。グリーンの生活習慣病健診のチラシをご覧ください。小学校 4 年生と中学校 1 年生を対象に実施しております、資料 5 にも記載のとおり、子どもたちから望ましい生活習慣を築くことにより、子どもたちが生涯健康な生活が送れるように啓発と支援を行っております。</p> <p>また、保護者や学校関係者にも子どもの生活習慣病を予防する意識を高めてもらえるように、新潟大学の小児科の小川先生による研修会や健康相談会も開催しております。</p> <p>検討委員会の先生方からは、受診後の健康相談が重要であるというお話をいただきまして、各区の健康相談に任せるだけでなく、昨年度初めての試みといたしまして保健給食課が独自に健康相談会を企画いたしました。10 月に 3 回ほどメディアシップを会場に実施いたしました。引き続き今年度も実施する予定です。</p> <p>また、今年度の平成 30 年度の受診率は速報値で 13.1 パーセントということで、昨年度平成 29 年度は 12.4 パーセントでしたので、昨年度に比べてアップとなり非常に喜んでおります。</p> <p>チラシの表にもありますけれども、西区のアピタ新潟西店で今年度はじめて商業施設での開催を行いました。200 人近くの受診がありまして、非常に良かったと思います。今後も引き続き受診勧奨に努めてまいります。</p>
事務局	<p>同じく、保健給食課給食係の源川と申します。私からは、もう一つ保健給食課の取組を紹介させていただきます。資料 5 の 4 ページ、その他のところで「食育ミニフォーラムの開催」がございます。こちらの取組について簡単にご紹介をさせていただきます。資料 2、平成 29 年度の実施状況報告書にも載っております。64 ページをご覧ください。</p> <p>今年度はまだ、実施はしておりません。来月と再来月に行く予定です。昨年度につきましては 64 ページのとおりで、写真も載せてあります。</p> <p>中身としましては、中学校区単位でその中学校の子どもたち、それからその学校区の小学生そのほか保護者の方、それから地域の方々を招いてミニフォーラムを開催しております。毎年 2 校で行っております。</p> <p>昨年度のものが 64 ページにあるのですがけれども、昨年は月潟中学校区で「弁当の日」がやってきた！」ということで、この弁当の日の提唱者であり</p>

	<p>ます竹下和男さんからご講演いただきました。</p> <p>もう一つは、潟東中学校でも生徒による取組の発表ですとか、講師を招いての講演を行っております。</p> <p>弁当の日につきまして簡単に触れますと、基本的にはお弁当を作るのは親が大半でお父さん、お母さんもしくはおじいちゃん、おばあちゃんが作ってくることがほとんどですけれども、自分たちで作れるようにしましょうということの啓発、そういった活動をされているのがこの竹下さんです。</p> <p>小学校低学年であれば、例えば買い出しのお手伝いですとか、ある一品だけつくるとかそういうところから始めて、高学年あるいは中学生になればお弁当一つ全部自分で作れるようになるということを目指して、それを機会に食べることの大切さを学ぶということをおねらいとしております。こういった、お弁当の日の提唱者に去年来ていただきました。</p> <p>今年は2校で行う予定ですが、内容としましては一つは「プロスポーツ選手の生活とスポーツを通じて学んだこと」というテーマで食育と絡めて講演いただきます。</p> <p>もう一つは、災害時における食の意味と災害食というテーマで行う予定になっております。保健給食課からは、以上です。</p>
事務局	<p>保育課の斉藤と申します。私からは、資料5をご覧くださいながらご説明させていただきます。</p> <p>まず、①えらぶ 18、給食による食育の啓発です。保育園におきまして、毎日給食では旬の食べ物、また地域の特産物を取り入れた献立を作成しまして、身近な場所でとれた食材のおいしさを体験できるように取り組みます。</p> <p>その次に②です。②つくる 12、食育の日の実施です。毎月19日の食育の日には、郷土料理や地場の食材を使用した給食を通しまして様々な料理と出会って地域の食文化を体験できるよう、特別献立を作成し、給食だよりにおいて意図を周知しております。</p> <p>それから、13、クッキング保育の実施についてです。クッキング保育は園によってなのですが、様々な取組を行っております。</p> <p>まず、その一例をご紹介しますと、まず下ごしらえのお手伝いです。どのようなものを行っているかといいますと、まずピーラーを使っての野菜の皮むき。これは、給食に使うものを下ごしらえしてもらっています。それから、玉ねぎの皮むき。キャベツや白菜の葉もぎ、キャベツちぎり、こんにゃくちぎり、きのこをほぐしたりもしてもらっています。ピーマンの種取りもしてもらっています。</p> <p>今、申し上げましたのがだいたい通年で実施できるものですが、旬の</p>

	<p>食材を使ったものとしましては春には筍の皮むき、ソラマメのさや取りなども子どもたちは喜んでしてくれます。</p> <p>夏に実施しますが、とうもろこしの皮むき、それから枝豆をもいでもらったりもします。</p> <p>それから、これからの季節になりますが、菊をもいでもらったりブロッコリーの房取りもしてもらっています。</p> <p>それから、下ごしらえ以外にクッキングですけれども、多くの園で行われていることがカレー作り、味噌汁作り、ピザ作り、カップケーキやホットケーキなども園によっては作ってクッキングの体験をしているようです。</p> <p>このように、身近な食材に触れることにより料理と食について関心を持つ力を養います。</p> <p>最後ですが、③食べるの 10、給食による食育の啓発です。幼児は、概して食経験が少ないですので、食べ慣れない食材や料理は敬遠しがちですが、普段一緒にいる身近な保育士ですとか、友達とともに楽しく食べることにより苦手なものをおいしく食べられる経験の積み重ねをしています。</p> <p>保育課の資料については、以上です。</p>
事務局	<p>農林政策課の外内と申します。私から、農林政策課で行っている事業について、まず資料5で説明させていただきます。その他の事業の上から3段目と4段目が当課の事業になります。</p> <p>新潟市では、農薬や化学肥料を使った栽培である環境保型農業を推進しており、環境と人にやさしい農業支援事業ということで大きく分けて二つの取組を行っております。</p> <p>まず、新潟県出身タレントの大桃美代子さんが進める無農薬栽培の米作りに賛同し、地元農業者の協力のもと田植えや稲刈りなどの体験イベントを実施というものです。</p> <p>もう一つは環境に優しい農業、環境保全型農業ですとか資源循環型農業を実践する農業者の取組を支援し、消費者の方へ安心・安全な農産物を安定的に供給するため、かかる経費の一部を助成するというものになります。</p> <p>本日は、このうち田植えや稲刈りなどの体験イベントの様子が資料2、90ページに載っていますので、こちらをご覧くださいながらご説明したいと思います。</p> <p>資料2、90ページの取組は、昨年度の取組の様子になります。平成30年度にとっても同様に田植え体験から稲刈り体験までを同じように実施する予定でおります。</p> <p>今年度は、5月26日土曜日に田植え体験をして33名の方からご参加いただきました。7月7日の土曜日に生き物調査、草取りをして15名の方からご参</p>

	<p>加いただきました。それ以降の活動については、今月の 29 日土曜日に稲刈りとはさ掛けの体験を、11 月 17 日土曜日に収穫祭を予定しております。</p> <p>また、生き物調査ですが、無農薬栽培がいかに環境に優しいかということに参加者の皆様、参加していただくのは小学生の 6 年生までの親子が主な対象となるのですが、そちらの皆さんに無農薬栽培というものはいかに環境に優しいかということを知っていただくような取組を行っているところであります。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上が事務局関係の説明なのですが、大変申し訳ないのですが、時間がかなり差し迫ってまいりまして、ご意見をいただく時間が限られてしまって申しわけございません。ただいまのご説明に対して、ご質問やご意見をお願いいたします</p>
<p>松田委員</p>	<p>若い人にアプローチをかけていかなければいけないとおっしゃられています、多分自分がそういう世代なのかと思ってご意見させていただきたいのですが、今ぱっと見てみたところ、フォロワー数が 162 名ということで、このフォロワー数の分析もされているのでしょうか。</p> <p>あと、このフォロワー数が 162 だと非常に、すみません、大変申しわけないのですがきっと少ないという印象があります。</p> <p>何回かターゲニングとして無関心層へのアプローチというふうに出てきたと思うのですが、多分無関心層ではなくて、ターゲットとして潜在層になるのではないかと。何か、フックがあればいつでも活動できるような。</p> <p>先ほど、平松先生がおっしゃられていたように、やはり保育園に行っているお母さんたちは忙しい。土日しかない。平日は自分の仕事でいっぱいという人が多いと思うので、そういう人たちは別に無関心なわけではないのです。子どもがいるから子どものために何かしてあげたい、でもそんな余裕はない、そういう人たちに何かフックをあけてもっと積極的に活動してもらおうというアプローチになっていったほうがいいのではないかと思います。そういう意味では、ターゲニングおよび無関心層というのは少し合わないのではないかと考えました。</p> <p>それで、このインスタグラムをどちらかというと潜在層にアプローチするにはフォロワー数をどんどん増やしていかなければいけないということです。このフォロワー数を増やすためにどういうアプローチをこれからしていくのか、また、もうすでにされているのかということところが少し気になったということです。</p> <p>特にインスタグラム、写真が非常に重要になってくるものだと思います。お</p>

	<p>いしそうな写真がどーんとか、何かきれいなお花がどーんだけではなかなかフォロワー数が増えないですし、引っかかってこないです。</p> <p>私もインスタグラムを、少しフォトグラファーみたいなものもやっていましてインスタグラム結構やっているのですがけれども、なかなかいい写真でないと広がっていかないです。</p> <p>どちらかという、せっかく食育と言っているのだから、子どもたちがおいしそうに田んぼの真ん中でおにぎりを食べている写真とか何かそういうほうがもっとブックとして引っかかってくるのではないかという印象を覚えました。</p> <p>少し生意気ですが、申し訳ありません。</p>
会 長	<p>貴重なご意見をありがとうございます。事務局から何か今のご意見に対してございましたらお願いします。</p>
事務局 長澤	<p>貴重なご意見をありがとうございました。4月からツイッターとインスタグラムを始めたのですが、実はまだ手探り状態で今おっしゃっていただいた分析ですとか、そういった部分はできていない状態です。</p> <p>今後は、ご指摘があったようにフォロワー数の分析ですとか、あと実際フォロワー数になっていただいている方のご意見などそういったものを聞きながらフォロワー数を増やしていきたいと考えております。</p> <p>また、見ていただいてご意見がございましたらいつでもいただければありがたいです。よろしく願いいたします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、委員会が年1回になってしまったということですが、委員会以外でもご協力いただけたらありがたいと思いますので、直接やり取りをしていただけると嬉しいです</p> <p>ほかにいかがでしょうか。渡辺委員お願いします。</p>
渡辺委員	<p>無関心層をいかに掘り起こすかということが一つの切り口だと思うのです。</p> <p>非常に今災害が多い中、今回も北海道の地震がありました。決して悪い言い方ではないのですが、あの日一般の方のインタビューを聞いているとまさか自分にこういう災難がふりかかるとは思わなかったという方が結構多かったのです。まさに、自分にも災難がいずれ起きるといふか、そういう切羽詰った、そこまでいかないと確かなかなか本当の意味でやる気がでないということも、まさに災害食も一緒です。</p> <p>今回、新潟市で食育と多分一からのパッキング、パックスッキング災害食、資料6ですけれども、こう取り上げていただいているのは食育と災害食の連携という非常に先駆的な取組を新潟市でやっていらっしゃると非常に心強いと思うのです。</p>

	<p>ぜひ、今の時代は災害がある意味で一番切羽詰っているという気がするのです。例えば、食に関心を持っている市民の割合は特に若い層を掘り起こす一つの切り口として、やはり災害食というものは一つ大きく取りあげながら、やはり究極の食育というときに本当に食べるものがなかなかないというときにいかに料理をしていかに食材を選んで工夫するかという、まさに子どもの食育の打ってつけの場だと思うので、ぜひ災害食を掘り起こすという、そういう切り口という意味でも、もっともっと災害食をクローズアップしていくのも1つの方法かと思って聞いていました。以上です。</p>
会 長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。ほかに、もう1人くらいいかがでしょうか。</p>
藤田委員	<p>質問ではありません。意見をいくつかお願いいたします。</p> <p>ちよくちよく申し上げていることかと思っておりますけれども、食育推進活動事業は全国いろいろな都市でやっているのだらうと。国の指導もあるのではないかと思うわけです。ここでお話を聞いているとやるべきことは全部頑張っていると思えるわけです。</p> <p>現実、全国ほか例えば政令市などでほかの都市でやっていることに比べて新潟市の活動はどんなレベルなのだろうかと。もっと量的に模範になるようなところをこんなことをやっていたという事例があるのかどうなのかというところを少し知りたいと思うことが一つあります。</p> <p>それから、いろいろ活動して事業をやっている中で計測はなかなか難しいと思うのですが、結果効果として表れているものが何か数値で出てこないのかと。それを探すような網を張るといいますか、そういう活動ができないのかと思うのです。</p> <p>新潟の子どもたちは、虫歯が非常に少ないとか、全国一少ないとか、身長がどうかというようなことがよく言われるわけです。食育推進について、このような活動を繰り返しやることによって、今申し上げたような何かが、例えば子どもの肥満の割合とか、やせの割合からこんなに変化したとか、あるいは子どもたちのなる小児糖尿病とか高血圧という部分がこんなに変化したというような指数が出てくると取組への動機づけになるといいますか。意外につながるのではないかと。参加の動機づけになるのではないかと思います。何か、もうそういう目で調査のデータが出たらおもしろいということが一つあります。</p> <p>それから、もう一つプロジェクトといいますか、食育のプロジェクトを超越したようなことになろうかと思うのですが、この中にもちよくちよく出てくる言葉ですが、高齢者の健康と食ということ、主に、若い人たちや子どもたちがターゲットになっているのですが、これからの非常に問題になる医療費負担の増加とかですとか、介護費負担の増加ということ。</p>

	<p>私、協会けんぽ、健康保険協会の役員をやっておりますが、特に話題になるのですが新潟市、新潟県は全国一保険料率が低いです。健康であるのか、あるいは我慢して医者に行って医療費を使わないのかよく分からないのですけれども、結果的には非常に全国一保険料率が低いという。</p> <p>そんなことを考えるとさらにそれを進めていくのに、スマートウェルネスシティというコースとって医療費が財政に非常に負担になるだろうということを回避するために行政レベルで動きがあるわけです。これは保健というか治療の観点、健診の観点とそれから体育というのでしょうか、運動もしてという観点と、それから食事という観点があるかと思うので、先ほど超越してしまうといったのはそういうことで、横断的にいろいろな部分が原因でひとつではないのしょうけれども、そういう部分は高齢者に向けても非常に大きなものになるのではないかという気がしますので、そういう観点からもどうなのかという理解でございます。以上です。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。食育の成果の見える化。特に新潟市としての特徴をどう出していくか。そして、高齢者の食という新たな課題についてコメントをいただきました。</p> <p>ここで時間となりましたので、本日出ました様々な意見を今後の予算あるいは事業に生かしていただければと思います。</p> <p>それでは、次第2(2)平成30年度食育推進事業については以上としたいと思います。</p> <p>その他です。委員の皆様がたから何か報告事項などはありますでしょうか。ないようでしたら、本日の議事はこれで終了したいと思いますので事務局にお返しいたします。</p>
司 会	<p>村山会長と委員の皆様ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第3、連絡事項に移ります。3点ございます。1点目、繰り返しになりますけれども本会議として皆様にお集まりいただくのは、今年度はこれで終わりになります。今後は3月に今年度の食育関係事業の取組についてなどの資料をお送りいたします。ご一読いただきまして、メールや郵送、電話等によりご感想、ご意見をいただければと思います。</p> <p>2点目です。今回の会議の報酬につきまして、事務処理が済み次第速やかに皆様のご指定の口座に振り込ませていただきます。</p> <p>3点目、本日駐車券をご提出いただいた方は無料の処理をしたものが入口の受付にございますので、お帰りの際はご自身の駐車券を忘れずにお持ち帰りください。以上です。</p> <p>本日は、お足元の悪い中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、食育を皆様のお力をお借りしながら推進していければと考えておりますの</p>

	<p>で、よろしくお願いいたします。</p>
--	------------------------

	<p>以上をもちまして、平成 30 年度新潟市食育推進会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p>
--	--